

地盤と建築をつなぐ(2021年6月発行:第1版) 正誤表

整理番号 1から65まで:2023年9月6日更新 第2刷にて修正予定

整理番号	頁	訂正箇所	誤	正
1	35	上から7行目	※改変の経緯はコラム(P.30)を参照	※改変の経緯はコラム(P.36)を参照
2	43	図3.4.1	細粒分 $\leq 50\%$	細粒分 $\geq 50\%$
3	56	表3.7.2	地盤の長期許容支持力度	地盤の長期許容 応 力度
4	60	図3.7.4	抜け	単位:mm
5	72	上から6行目2か所	乾燥密度	乾燥密度
6	72	上から3行目	間隙比, 間隙	間隙比, 間隙
7	72	上から4行目	間隙比	間隙比
8	74	図3.8.9	塑性限界	液性限界
9	75	上から4行目	図3.8.10	図3.8.12
10	76	上から4行目	非圧密非排水試験(UU)	非圧密非排水試験(UU試験)
11	77	上から9行目	ϕ	ϕ
12	77	下から1行目, 2行目	ϕ	ϕ
13	78	下から4行目	間隙水圧	間隙水圧
14	81	図3.8.27	P.117参照	P.118参照
15	82	式13)の内容	$K=100KD_{10}^2$	$K=100D_{10}^2$
16	82	式12)の内容	Cc:圧縮指数	削除
17	96	上から3行目	面状に改良	面状に 補強
18	96	上から3行目	杭状に改良	杭状に 補強
18	100	図4.3.2	(b)べた基礎 (a)布基礎	(a)べた基礎 (b)布基礎
19	107	図4.4.2	(b)べた基礎 (a)布基礎	(a)べた基礎 (b)布基礎
20	109	下から4行目	プレボーリング	プレボーリング
21	113	下から5行目	下図	図-4.6.5
22	115	図4.6.7	H:水平力の下に抜け	E:杭のヤング係数(kN/m ²) I:杭の断面二次モーメント(m ⁴) β :杭の特性値 $\beta = \sqrt[4]{k_n \beta / 4EI}$ k_n :水平地盤反力係数(kN/m ³)
23	115	上から3行目	E_0	E
24	117	上から2行目	図4.6.11	図4.6.10
25	117	上から2行目	図4.6.12	図4.6.11
26	118	上から6行目	抜け	P:杭頭荷重(kN) P_{FN} :負の摩擦力による軸力の増分(kN) R_P :正の摩擦域における杭周面摩擦抵抗力(kN) R_D :杭先端の抵抗(kN)
27	124	下から2行目	30~60	30~100
28	127	上から10行目	②標準貫入試験	②土質試験
29	127	上から11行目	標準貫入試験	土質試験
30	128	表4.8.2	土の内部摩擦角	土の内部摩擦角(度)
31	128	最終行に抜け		α :基礎の寸法効果による補正係数
32	147	図5.1.1	地盤面の設計水平深度	地盤面の水平 加速 度
33	155	下から6行目	③有効上被り厚:土粒子の密度試験	③有効上被り厚:土の密度試験
34	163	図5.6.4の上の図中	細粒土含有率20%の場合	細粒土含有率20%の場合
35	164	下から3,5行目	抜け	タイプ I:大きな振幅が長時間繰り返して作用する地震動(プレート境界型の大規模な地震)を表したもの タイプ II:地震動は継続時間は短い極めて強度を有する地震動(兵庫県南部地震のような内陸型地震)を表したもの
36	169	図5.6.7の左下図中	$\sigma_0 = \sigma_d / 2$	$\sigma_0 + \sigma_d / 2$
37	232	下から2行目	抑制工	抑止工
38	232	下から2行目	抑止工	抑制工
39	236	図7.4.3右上	$P > F$	$P < F$
40	241	図7.5.3(1)図中	2m以上	2mを超える
41	241	図7.5.3(2)図中	1m以上	1mを超える
42	241	図7.5.3(3)図中	1m以上, 2m以上	1m以下, 2mを超える
43	241	図7.5.3(4)図中	面積が500m ² 以上	面積が500m ² を超える
44	255	下から4行目	締固め度 $= P_{max} / P_D \times 100$	締固め度 $= P / P_{Dmax} \times 100$
45	266	表7.10.2	土質ごとの施工上の留意点	土質ごとの留意点
46	267	内水水害の説明	頻度は多いが,被害は小規模である。	頻度は多いが,被害は 外水災害より比較的,小規模なことが多い。
47	285	上から5行目	図8.4.4	図8.4.6
48	285	上から7行目	σ_A	σ_{ha}
49	285	上から9行目	最も大きくなったのが受動土圧	最も大きくなったのが 受動土圧
50	286	式1)	(kN/m)	(kN/m ²)
51	286	式3)	γ_t (kN/m ²)	γ_t (kN/m ³)
52	286	式4)	(kN/m)	(kN/m ²)
53	286	式6)	(kN/m)	(m)
54	287	式10)	γ^2	$\gamma \cdot Z_1^2$
55	288	ポイントの表で支持力の数	1.5	2
56	288	式3)の下の方	合力R	合力R(W+P _v)
57	288	式4)	V	R
58	288	図8.6.2	Rの矢印	Rの矢印を鉛直に修正
59	289	図8.6.3	W	R _v
60	289	式6)の記号の単位	C _B (kN/m)	C _B (kN/m ²)
61	289	上から9~11行目	基礎地盤	支持地盤
62	290	式8)	σ (max,min)	σ (max,min)
63	290	式8)	6/e	6e
64	297	4)の右側	J1	σ_1
65	315	上から3行目	P14	P13